

## 土木学会 鋼構造委員会「新しい桁端構造に関する調査研究小委員会」委員の公募

土木学会鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会にご参加いただける方を公募いたします。本委員会の目的および内容は以下のとおりです。

### <委員会名称>

新しい桁端構造に関する調査研究小委員会

委員長 紫桃 孝一郎：東日本高速道路株式会社

### <背景と目的>

鋼桁においては、その湿潤な環境が影響し、桁端に腐食損傷が生じることが多く、様々な補修・補強工法が提案されているが、抜本的な解決には至っていないのが現状と思われる。桁端に設置される伸縮装置は、直接交通荷重の影響を受け、損傷することが知られている。伸縮装置の損傷により非排水構造も損傷し、路面から桁端部に漏水することが桁端部の腐食損傷の主な要因と考えられる。交通規制を実施しながらの取換え工事が実施されるため、その耐久性の向上や取替えやすさなどが課題と考えられる一方で、新設橋梁については、維持管理性に配慮した構造とするように求められており、いろいろな構造細目が提案されている。しかしながら、新設橋梁の対策と、補修・補強における対策との関連などを整理した資料などは少ないと思われる。また、これまでとは異なる観点から桁端全体を考慮に入れた構造形式などの検討も可能だと思われる。前述の伸縮装置の損傷に関していえば、立地条件などにもよるが、極端に考えるとあえて水を止める構造ではなく、積極的に導水してしまう構造の提案や非排水構造の高耐久化の構造提案なども可能であると思われる。伸縮装置は、直接輪荷重を受けるため、消耗部品であることは間違いなく、簡単に短時間で取換えなどができれば、定期的に交換するような取組みも可能となる。さらに、このような短時間の交換を可能とするような鋼桁端部の構造形式の検討も一体となって行う必要があると思われる。

そこで、本小委員会では、桁端構造の腐食損傷に関する調査・研究、および補修・補強工法を整理するとともに、抜本的な解決方法となる桁端構造について検討したい。ここでいう桁端構造には、水の浸入に関わる伸縮装置や、桁端部の構造形式・形状なども含み、補修・補強への適用も視野に入れた検討を行いたい。これまでの補修・補強工法の研究成果が参考になると考えられ、そこから新しい構造形式が提案できるか考えてみる価値はあると思われる。これまでの概念に縛られない柔軟な発想を求めているので、幅広い経験年数の技術者・研究者に参画してもらう必要があると考えている（桁端の構造については、上記の視点に加え耐震上の配慮も必要であり、耐震設計上の観点も加えて桁端構造のあり方を検討する）

### <活動期間>

2022年10月～2024年9月（2年間、予定）※旅費、交通費は支給されません。

### <公募締切日>

2022年9月末日

<応募方法>

本委員会に参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属、(4)連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス）、(5)特に興味のある検討事項、等について、下記の応募先まで E-mail にてご連絡ください（書式任意）。応募の際のメールタイトルを「新しい桁端構造に関する調査研究小委員会参加希望」とご記入ください。なお、委員数は全体で（20名程度）を予定しています。応募者数によってはご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。特に若手技術者の応募も歓迎いたします。

<応募先および問合せ先>

志賀 弘明（幹事長）：J F E エンジニアリング株式会社  
社会インフラ本部 改築事業部 技術部  
〒230-8611 神奈川県横浜市鶴見区末広町2丁目1番地  
電話：045-505-8911 FAX：045-505-6563  
E-mail：shiga-hiroaki@jfe-eng.co.jp

以上